

「大規模断水から学ぶ大切なもの」

静岡市立清水小島中学校2年 稲葉 圭亮

税金についてのニュースや社会の授業を通じて「税金を納めることは国民の義務である」と聞いたことがあります。ただ、私は今まで税金を身近に感じたことが無く、税について詳しくは知りませんでした。そこで、この作文を書くことをきっかけに、税金について少し調べてみました。

まず、税金はどのようなことに使われているのでしょうか。税金は、ライフラインの整備や医療の費用、公共の仕事に就く人達の給料などに使われています。改めて考えてみると、どれも私達の生活に深く関係していることに気づきます。

思い起こせば二年前、私が住んでいる地域に台風十五号が直撃しました。その影響によって、川の上流の水道管が流されてしまい、地域全体で大規模な断水が発生しました。断水期間中は、トイレを使うために山の水をくみに行ったり、洗濯をするためにコインランドリーに通ったりしました。近所の人達は、給水車に水をくみに行っていました。二週間後、「この生活はいつまで続くのだろう」と不安に思っていると、行政の方々の対応によって新しい水道管が取り付けられました。私の家の蛇口から、またいつものように水が出るようになりました。もし、税金がなかったとしたらどうなっていたでしょうか。復旧費用が集まらず、今もなお断水が続いていたかもしれません。私の日常は税金に支えられていたのです。

税金は医療費にも使われています。私は、中学一年生の時に人生で初めて足を骨折しました。診察や処置、検査などにはたくさんの費用がかかったと思います。しかし、私は通院の度に五百円で先生に診察していただくことができました。もし、税金がなかったら、費用が高額になっても自分で負担する必要があります。親の収入に関係なく、子供たちが必要な治療を受けられるよう、税金は使われていたのです。

税金は公共の仕事に就く人達の給料を払うことにも利用されています。給料がもらえなければ、公務員と言われる方々や公立学校の先生方、消防士の方々は生活することができません。つまり、税金がないと、授業を受けられなくなったり、火事が起きてもお金が払えず火を消してもらえなくなったり、みんなが安心・安全に過ごしていくことができなくなるのです。

このように、税金は私達の生活に深く関わり、なくてはならない大切なものです。今回の学びを通して、自分自身、税を納める責任が強まったことを実感しています。将来、私が大人になって税金を納める立場になった時には、自分だけでなく、共に生活する人達、特に高齢者など自力で生活できなくなった人達などを支えていけるような人間になりたいです。